

みどりの大使 が行く!



...CROWN...
2026
ミス日本みどりの大使
ながた まなみ
永田 愛実



とうきょう林業サポート隊



公益財団法人東京都農林水産振興財団が運営する「とうきょう林業サポート隊」のメンバー募集用ポスター撮影に参加しました。撮影では植栽や下刈り、枝打ちなどを体験しました。想像していた以上に体力が必要でしたが、森の中で汗を流しながら作業する時間はとても楽しく、森づくりのやりがいを感じることができました。

近年は各地の林業の現場で、女性の参加が増えてきていると耳にしていたし、今回も参加者の方から同様の話を伺いました。森づくりがより多くの人に開かれてきていることを感じました。

FOREST BALANCE GAME



茨城県緑の少年団交流集会にて、飛騨五木株式会社さんが制作された「FOREST BALANCE GAME」のファシリテーターを務めました。このゲームは、プレーヤー自身が森林の持ち主となってチェンソーなどの道具を買い、山仕事をしながら、より良い森づくりを目指す対戦型のボードゲームです。私もこのゲームを通じて、ハーベスタやバックホーといった林業機械や、列状間伐・搬出間伐などの言葉を知りました。

子どもたちは、私の想像以上に夢中になり、「もう一回やりたい!」という声がたくさん聞こえてきました。ゲームを通して子どもたちが森や林業を身近に感じるきっかけが生まれていたことをとても嬉しく思います。改めて、楽しみながら学ぶことの大切さを感じた1日となりました。

愛実のつなぐ・届ける・森の声

**林業を始めて10年。磨いてきた技術が、誰かを助ける力になる。
僕たちが未来にできることは、技術をつなぎ、人を育てること**

この言葉は、取材でお会いした能登森林組合の徳田尚貴さんからいただいた言葉です。能登半島地震が発災した1月、私は受験生でした。同い年の受験生達が避難所生活を送りながら受験勉強に励む姿が報道されており、その様子は今でも鮮明に覚えています。徳田さんは、地震で発生した倒木や土砂によって道路が寸断された際、林業で培った重機の技術を生かして道を切り開き、孤立した集落へ向かう作業に携わった話をしてくださいました。その中で特に印象に残ったのが冒頭の言葉です。徳田さんは、「僕たちが未来のためにできることは、森林整備もそうですけど、被災地の応援に携わることができる人材を育てていくこと。それが使命であり、これからの目標です」と話してくださいました。

私は、林業は森を育てる仕事というイメージが強くありましたが、人の暮らしや地域を守る力にもなっていることを知りました。そして、その技術を次の世代へ受け継いでいくことこそが、未来への備えにつながるのだと感じました。今も徳田さんの言葉の重みを強く感じています。

